

報告事項 4

御影幼稚園の教育奨励賞受賞について

御影幼稚園の時事通信社「教育奨励賞」優秀賞・文部科学大臣奨励賞受賞について、
以下のとおり報告する。

平成29年10月16日提出

神戸市教育委員会

教育長 雪村新之助

神戸市立御影幼稚園

第 32 回 時事通信社「教育奨励賞」優秀賞・文部科学大臣奨励賞 受賞

「遊び込むと片付けも楽しくなるって本当？」

1. 幼児教育では初めて

神戸市立御影幼稚園が「遊び込むと片付けも楽しくなるって本当？」をテーマとした取組で、時事通信社が実施する第 32 回教育奨励賞において、最高の賞である優秀賞・文部科学大臣奨励賞を受賞した。

幼児教育に対して本賞が贈られるのは、1985 年の賞創設以来、初めてのことであり、また、兵庫県下の学校・幼稚園が受賞するのも初めてである。

2. 時事通信社「教育奨励賞」について

「教育奨励賞」は、創造性に富んだ特色ある教育を実践し、顕著な業績を挙げた学校に贈られ、学校教育のいっそうの充実を図ることを目的としている。

全国の教育委員会等から推薦を受けた公私立幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校に、記者が直接取材してレポートを作成し、主にそれに基づいて選考がすすめられる。今年度は、59 件、64 校園の中から、御影幼稚園が特に優れた 1 校として選ばれた。

3. 御影幼稚園の取組

御影幼稚園は、「遊び込むと片付けも楽しくなるって本当？」をテーマに、園児が遊びに没頭する「遊び込み」を支援する教育を科学的な根拠に基づいて研究し、遊びに向かう能力や態度を育成している。また、遊び終わった後に、子供同士で遊びを振り返り、片付け方法について話し合う時間を設けることで、園児が片付けにも自ら取り組むなど、主体的に生活を送る習慣づくりにつなげている。

審査では、「幼稚園教育の核心である『遊び』を段階と連続性を持つ『遊び込む』体験と捉えて、子供の主体性を育んでいる優れた取組である」と全審査委員から高い評価を得た。

4. 授賞式

10 月 23 日（月曜）17 時から、時事通信社本社にある時事通信ホールにて授賞式が開催される。表彰状と盾のほか、副賞として 100 万円が贈られる。御影幼稚園はこの副賞を活用して、平成 30 年度より開始される 3 歳児保育充実のため、保育室前に藤棚を設置する予定である。

神戸市立御影幼稚園 園長 平井 和恵 園児数 4 学級 110 人

所在地 神戸市東灘区御影石町 3-13-1

第 32 回教育奨励賞推薦書

学校名	兵庫県 神戸市立御影幼稚園	
所在地	〒658-0045 神戸市東灘区御影石町3-13-1	
電話	078-851-2030	
園長氏名	平井 和恵	
学級数	4学級 (園児数 110人)	
受賞歴	なし	
研究・実践のテーマ及び研究概要（創造性に富んだ特色ある教育の研究・実績にいかにより顕著な業績を上げたか）	区分	(A) 授業の革新 B. 地域社会に根差した教育
	研究・実践期間	今年度で3年目
	1. 研究・実践のテーマ	「遊び込むと片付けも楽しくなるって本当？」 ～存分に遊び込む体験を通して、課題意識をもって生活できる子供の育成を目指す～
	2. 研究の概要	<問題> 本園では、平成27年度に神戸市教育委員会の事業「幼児期における躰（しつけ）実践モデル研究推進園」「神戸パイロットスクール」の指定を受け、幼児が集団の中で、規範意識や人のかかわり等を学ぶための教育内容や指導法を探る実践研究を行った。その中で、幼児の大切な学びを育む基盤となる「遊び」の見取りと、「片付け」が課題となった。集団生活の中で「片付ける」ことをどのように育てるとよいのか、幼児は存分に遊び込むと片付けを意欲的に行うのか等について探りたいと考え、テーマを設定した。 <研究方法> 「遊び込む」「遊びに没頭する」姿とはどのような姿であるのか、「遊び」の姿と「片付け」の姿を改めて捉えなおし、課題意識をもって生活する子供の育成を目指して、以下の研究を進めた。まず、実践を動画に撮ったり、他の保育ビデオ等を活用したりしながら「遊び込みに向かう姿」、「片付けの姿」とはどのような姿なのかを捉え、KJ法により分類し、プロセス表を作成すると共に、職員で話し合いを重ね、共通理解を図った。次に、実践の中でエピソード記録を蓄積し（74事例）、先に分類したプロセスのどの段階の姿になるのかを考察し、「遊び込みに向かう姿」と「片付けの姿」の相関関係を表に表した。（上表）
	<研究結果>表に示すように、ほとんどの事例で「遊び込みに向かう姿」と「片付けの姿」に、相関関係があることが分かった。例えば、遊び込みに向かう姿が段階4について、片付けの姿も段階4と分類されたものが22事例となり、幼児は遊び込むと片付けも意欲的に進んでいることが分かった。一方、数は少ないが、「片付けの姿」の段階は低い「遊び込むに向かう姿」が高い幼児がいることに対して、教師は遊んでいるからと見守るだけでなく、より遊び込める援助や環境の構成をすることが、主体的に「片付け」をすることにつながっていくことが分か	

	<p>った。具体的な援助について、74事例から援助や環境の構成のキーワードを探り、カテゴリー化すると、「遊びの満足感を感じる」「遊び感覚で片付ける」「見通しがもてる」「物への愛着を感じる」「片付け方が分かる」「生活習慣が定着する」が挙げられた。反対に「片付けの姿」の段階が高く、「遊び込みに向かう姿」の段階の低い幼児については、生活習慣は身に付いているが、主体的に遊び込めていない幼児であり、生活習慣がしっかりできているために、集団のなかでは見落とされやすく、このような幼児にこそ、遊び込めるようにしっかり援助していく必要があることが分かった。また、遊び込むためには、遊びについて、幼児が振り返る経験をもつことが必要であることが分かった。集団の中で、友達と共に遊びを振り返る時間をもつことで、①友達の遊びの刺激を受けて、自分の遊びを工夫する ②友達の話をしっかり聞こうとする ③友達の努力や発見を認めようとする姿が育つことが実感された。</p> <p>加えて、この研究を神戸市の公私立の幼児教育施設や小学校に公開保育と共に発表を行った。遊びは学びを育む大切なものであり、積極的に援助を行うことの大切さが共有された。近隣の小学校の教員と共に幼児期の遊びについて学び合う機会となり、幼小連携に役立った。また、幼児教育に携わる職員にとっては、改めて、主体的な遊びの大切さと教師の援助や環境の構成を工夫する必要性を感じる機会となった。</p>
<p>研究実践体制</p>	<p>本園の研究の実践にあたっては、園長を筆頭として、全職員で連携をとりながら、日々の保育の振り返りを中心に行った。また、保護者に対して、研究成果のなかで、子育てに生かせる情報を保護者会で説明したり、たよりなどで伝えたりした。地域の方々にも広く研究成果を伝達し、地域における子育て支援の一環とした。</p>
<p>推薦理由 (要旨)</p>	<p>当該園は、以前から、様々な実践研究を推進し、各方面にその成果を発信してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度全国音楽教育研究大会において公開保育を行い、御影のだんじり(地域の祭り)等を取り入れた遊びを通して、音楽等の表現活動や地域のつながりを子供に育んできた。 ・平成7年の阪神淡路大震災で全壊したことから、様々な防災教育を継続的に行っている。 <p>地域や保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度より3歳児保育が開始されることとなり、保護者や地域もそれに向けて協力をしているなど、保護者や地域との関係が深い。定期的に近隣の小学校、中学校との連絡会が開催され、幼小中の情報共有や子供を共に見守り、育む関係が築かれている。 <p>平成28年度の具体的な実践研究から ①保育の改善と子供の育ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市における「幼児期における躰実践モデル事業」「パイロットスクール事業」の指定研究において、有識者の指導を仰ぎながら、職員みなで連携して実践をもとに研究を進めた。例えば、片付けの方法について、片付ける前に幼児が集まり話し合う(振り返る)場をもち、その後片付けをする等、保育の流れの工夫を行った。子供の翌日の遊び込みの姿の変化や片付けの姿の変化を捉えるなど、持続的に子供を捉え、保育の改善を図っている。 ・幼児が園内中の環境を主体的に活用し、友達と対話し、遊びを進めていく育ちが見られた。友達と遊びを振り返る話し合いにおいて、友達の話に耳をしっかり傾け、自分のことをしっかり言葉で伝える幼児の育ちが4歳児においても見られ、5歳児は、遊びの構成や片付け等においても友達と協同して、主体的に取り組む姿が見られた。 <p>②幼児教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の子供の学びや教師の援助をカテゴリー化して、科学的に分析。幼児教育の成果と課題をより具体的に捉えた。 ・保育実践を基に幼保小の教職員が話し合う場の提供を公私立問わず行うなど、学びの場としての役割を果たした。